

令和7年度佐賀大学教育学部・附属小中学校教育研究発表会

当日資料

国語科





2025 年7月 23 日(水)

公開授業Ⅰ 1年1組教室

1年1組 徳永 祐也 お話をいっぱいしよう『くじらぐも』

公開授業Ⅱ 多目的室1・2

6年1組 中尾 通孝 映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

公開授業Ⅲ 多目的室1・2

4年2組 中原 侑也 名探偵4年2組

推理小説の魅力を伝えよう『友情のかべ新聞』

くじらぐも 当日資料 Ⅰ

Ⅰ 時

「くじらぐも」と板書しました。
新しいお話を読むことを伝えました。
まず、どんなお話だと思うか聞きました。

- ・くじらがくもになる話
- ・くもに乗る話
- ・くじらとくもが合体する話

などが出ました。

『くじらぐも』を配布しました。
すぐに読み始める子がいました。
最初は、教師が範読しました。
「おもしろかった！」と言う子がたくさんいました。
どこが面白かったか聞くと、

- ・雲に乗るところ
- ・くじらとなかよくなるところ
- ・雲がくじらになるところ

などが出ました。

どうやって勉強しようかと投げかけると、「おおきなかぶ
みたいにやりたい」
と言いました。

音読劇をすることにきまりました。
4人グループに分けました。
グループに分けた後、早速音読劇を子ども達に委ねました。
子ども達は、集まって相談していました。
そして、何かを書き始めました。

何書いているの？

と問うと、
誰が何役をやるかを書いていました。

なるほど！何役かを決めて書いておけば分かりやすい
ね！

と価値付けました。

すぐに真似をするグループが出ました。
役割が決まったら、それぞれ練習を始めました。
しばらくすると、ある子が相談にきました。
誰の台詞か分からないところがあるとのことでした。
全体を止めて、何役があるかを聞きました。

- ・くものくじら
- ・1年2組の子ども達
- ・先生

と、すぐに出ました。
次に、誰の台詞かを確認しました。
最初の台詞が問題になりました。

「一、二、三、四」は誰が言ったのか。

「先生」、「子ども達」、「くじら」で意見が割れました。
いったん保留をして、他の台詞を確認しました。
台詞の確認が終わったら、練習を再開しました。
「一、二、三、四」を誰が読むかは子ども達にいったん任
せました。

練習をしていると、体操の動きをつける子が出ました。
どうして体操してるのかを聞くと、

「一ねん二くみの子どもたちがたいそうをしていると」と書
いてあるから

と帰ってきました。それを大きく価値付けると、
他の場所でも動きをつける子が出始めました。

くじらぐも 当日資料 2

2時

すぐに音読劇の練習を始めました。

まだ、たどたどしく読んでいる子もいます。

誰がどこを読むかをもう一度決め直しているグループがありました。

理由を聞くと、読む量に差がありすぎるとのことでした。

先生の台詞は2つしかありません。

どうすればよいかを話し合うように言いました。

地の文を1ページずつ分けて読むことにしました。

そのことをみんなに紹介すると、もう一度役割を決め直し始める班が出ました。

またしばらくすると、練習を再開しました。

前回のことを覚えていて、子ども達が動きをつけ始めました。

まだ、読み方そのものを工夫する班は見られません。

練習をしている班を回りながら、「一、二、三、四」の台詞を誰が読んでいるかを確認して回りました。

やはり、班によって違っていました。

前回問題になったことを確認しました。

「一、二、三、四」は誰が言ったのか。

子ども達に挙手で確認すると、同じ班でも意見が割れているところがありました。

班で話し合いをさせました。

その後、全体で自分の意見を発表する時間を取りました。

子ども達は、次のような意見をいいました。

一ねん二くみの子ども達派

- ・一年二組のこどもたちが体操をしていたから
- ・さしえて、こどもたちが体操をしているから
- ・「たいそうをしていると」と書いてあるから

先生派

- ・授業では先生が掛け声をかけるから
- ・さしえて、先生が前に立っているから
- ・子どもは先生の真似をしているから

くものくじら派

- ・くじらがあらわれているから
- ・さしえて、くじらがたいそうをしているから
- ・くじらは後から出てきたから
- ・「くじらもたいそうをはじめました」だから

子ども達の意見のよりどころは、大きく3つに分かれています。

- ・挿絵
- ・体験
- ・本文

どの意見も褒めました。

班でもう一度話し合うように言いました。

なかなか決まりません。

それぞれ、自分の意見に根拠があることを価値付けました。

その上で、最後は読む人に任せるように言いました。

くじらぐも 当日資料 3

3時

すぐに練習を始めました。
読みながら、困っている班がありました。
読むときに、友達の声が聞こえないとのこと。
机を移動したり、廊下に出たりしたいという子がいました。
全体に投げかけて、場所を移動してもよいことにしました。

練習をしていると、「ここへ、おいでよう」をゆっくり読む班が出ました。

全体に紹介し、ここは、ゆっくり読んだ方がよいかを聞きました。

全員が賛成しました。

どうしてゆっくり読んだ方がいいの？

ということ、班で話し合わせました。

そのあとに、意見を共有しました。

- ・子どもたちは運動場にいるから
- ・くじらは空にいるから
- ・「ここ」は空だから
- ・空は遠いから

などの意見が出ました。

子ども達の意見をすべて認め、ゆっくり読ませてみました。
読み方が変わったことをほめ、次のように言いました。

今みたいに、「ここはゆっくり読んだ方がいいね」とか、
「大きな声で読んだ方がいいよね」とか思いついたら、班で話し合ってみると、読み方が変わっていくよね。

さらに言いました。

もし、ここは工夫したいなと思ったら、班の人と話し合ってみて、工夫することが決まったら先生に教えて。

練習を再開しました。

練習しながら、子ども達は工夫することを話し合う姿が少しずつ見られました。

- ・いすに乗った方がいいんじゃない？
- ・手を振った方がいいんじゃない？
- ・天までとどけ。一、二、三はゆっくり言おうよ

などです。

教師に言いにくる班も出ました。

すべて褒め、どうしてその工夫をしたかを問いながら価値づけていきました。

練習を続けていると、「天までとどけ。一、二、三」の言い方を工夫するグループが出てきました。

一回目と二回目の台詞で読み方を変えているのです。

一旦練習をストップして、その班に一回目と二回目だけを読ませました。

読み方が違う！と子ども達が反応しました。

ここの読み方については、次回考えることにしました。

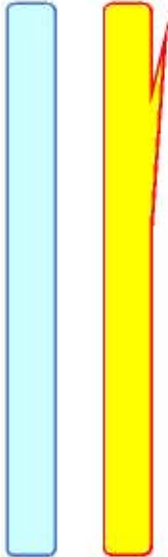
国語科 六年一組

『海の命』当日資料

前時までの班の学習状況(班用ワークシート)

修正・考察が必要な内容 ……………

学習班に対する本時の指導予定 ……………



班配置図



絵の内容(えほんはともだちの心と感動の絵本2『海のいのち』立松和平作 伊勢英子 絵 ポプラ社 一九九二年

教科書『海の命』立松和平作 伊勢英子 絵 挿絵 光村図書六年二〇二四年)

※著作物利用申請を出していますが、配布物としては印刷できませんのでワークシートの記録では番号で提示します。

① 子どもが浜辺で海に向かって駆けている絵	(教科書231頁 絵本表紙)
② イサキの群れ	(絵本のみ)
③ 朝日、または、夕日の海の絵	(絵本のみ)
④ おとうがクエを捕って船を操縦する絵	(教科書233頁)
⑤ 海原に一艘船が浮かぶ絵	(おとうが事切れたときの船) (絵本のみ)
⑥ 太一が与吉じいさに弟子入りを懇願している絵	(教科書235頁)
⑦ 与吉じいさが太一に釣を見せている絵	(教科書のみ)
⑧ タイと太一が漁をしている絵	(絵本のみ)
⑨ カモメの群れの絵	(絵本のみ)
⑩ 与吉じいさの死を悟り、感謝を述べる絵	(教科書237頁)
⑪ 太一が「父が死んだ瀬」に飛び込む絵	(絵本のみ)
⑫ 海中から船を見上げた絵	(教科書239頁)
⑬ 太一が海中を泳ぐ絵1 上から見た構図	(絵本のみ)
⑭ 太一が海中を泳ぐ絵2 小さなクエの前を通り抜ける	(教科書240頁)
⑮ 太一が海中を泳ぐ絵3 魚の群れの中を海面に向かって泳ぐ	(絵本のみ)
⑯ 瀬の主と向かい合った太一の絵	(教科書241頁)
⑰ 海面に向かって泳ぐ太一の絵	(教科書242頁)
⑱ ハマヒルガオの絵	(絵本のみ)

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

一班

名前()

BGMをつくる時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

悲しい
欲望
冷静
海
自然
人間
父

場面の絵、あらすじ、キャッチコピーなど、どんな言葉を入れるか考えよう

①

①

これはある少年が大人に成長する話である。

②

⑦

父が死んでから少年は漁ができる
与吉じいさが心のよりどころだった。

釣ができるから与吉じい
さか？「父が死んだ瀬」に
意味はないか？

③

⑩

太一はいつの間にか夢を持っていた

いつからか？

④

⑭

太一は近日中に夢を兼ねることとなった。

どうして近日中とおもったのか？

⑤

④

二つの考えがある

⑥

⑰

父は欲望。与吉じいさは冷静に。
という二つだった。

父と与吉じいさの話題が
上がったが、これはどの子
場面で二つあるのか？

⑦

このあと太一はどうしたのだろうか

問いかけ○引き付ける問いかけは？

⑧

リーダーシップがやや不足しているが、みんなが協力的で活動を進めている。
「近日中」なのか、夢は何かを問いかけて任せているところである。部分的には考えができているが、全体をつなげて考えることが必要である。全体を通したときの繋がり具合、文章を読んでいない視聴者の視点を取り入れたい。そのために、他の班とつなげることを勧めて、いろいろなアイデアに気づかせたい。

海の命

⑩

⑪

BGMをつくりなおす時に使う言葉(プロンプト:prompt)
＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

増えた言葉、変わった言葉はありますか？

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

二班

名前（

BGMをつくる時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

海 命 自然 魚 漁師

場面の絵、あらすじ、キャッチコピーなど、どんな言葉を入れるか考えよう

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

②

④

⑤

⑦

⑫

⑭

⑯

⑰

太一は、海が好きな少年だった。父はもぐり漁師で、潮の流れが早くても潜れない瀬に

どうして誰も潜れない瀬に父はいつていたのか？

どんな大物をたった一人でつても自慢することもない人だった。

どうして自慢しなかったのか？

ある日、海に行くと父は帰らなかった。中一を体に巻いたまま、事故

←だが、海に行った父は帰らなかった。

ある年の夏一本釣りをしている与吉じいさの弟子になった。

どうして与吉じいさを選んだのか？

与吉じいさの家にいくと与吉じいさも海に帰っていた。

何を書くの？飛躍し過ぎていない？

とうとう、父の海にやってきた。

背にもぐり続け一年が過ぎた。太一は青い宝石の目を見た。

興奮しながら太一は冷静だった。

「おとう、ここにおられたのですか。また、会いに来ますから。」

この抽象的な文をどのように解釈しているか？(1)とは？会いに来るとは？

海の命

BGMをつくりなおす時に使う言葉(プロンプト:prompt)
＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

リーダーシップをとって次どのようにしようとする児童がいる。
作業を段取りして、見通しをもって行動することがうまくいっている班。前時でも問いかけたが、質問をすると、そのことについて時間をかけて班で話し合っ、作業を進めていく。最初の段階で、課題を投げかけ、その後は、班に任せながら、合間に確認し誉める、他の班と繋ぐことを行う。

増えた言葉、変わった言葉はありますか？

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

三班

名前（

BGMをつくる時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

海

壮大

命

漁師

魚（大魚）

父と師の死

生死

欲

家族

悲しい

釣り

場面の絵、あらすじ、キャッチコピーなど、どんな言葉を入れるか考えよう

⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
			①	⑬	⑫	⑩	⑧	⑦	⑤	④
								弟子入りした与吉じいさは、あまり欲をかかない人物だった。	そんな父は岩のような魚をねらい、水中で事切れていた。	漁師の父に憧れている一人の少年。太一の父は誰もぐれない瀬にもぐっては、「海のめぐみだからなあ」と言うのだ。

どうして表紙を最後にしたのか？

BGMをつくりなおす時に使う言葉(プロンプト:prompt)
＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

リーダーシップをもって進める児童がおらず、互いに意見を言えないでいる。
絵の配置に注目している児童三名。あらすじやキャッチコピーに注目している児童一名。それぞれの意図が伝わらず、互いに譲り合っている様子。
画像の並び替えから、あらすじ、キャッチコピーに移行していく流れ。グループ内での交流を活発にするような声かけをすること。また、あらすじを一人でこつこつとつくってきた児童の文章を褒めつつ、あらすじ、キャッチコピーづくりに移行するようにしたい。

増えた言葉、変わった言葉はありますか？

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

四班

名前（

BGMをつくる時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

死 海 命

場面の絵、あらすじ、キャッチコピーなど、どんな言葉を入れるか考えよう

キャッチコピー ← **タイトル**
「海の命」

キャッチコピーで
どんなもの？

あらすじ

ある一人の漁師がいた

あらすじ

その男は村一番の漁師だった

あらすじ

その男には一人の子どもがいた

子ども 男の子 女の子
どの表現がいい？

あらすじ

子どもは与吉いさの弟子になった

どうして与吉いさ？

あらすじ

その子どもの名は太一。

太一は村一番の漁師になった。

ある日、父が死んだ。

子どもは父の遺志をついだ。

太一は百五十キロをゆうに超えているクエを見つけた。
このクエが父を破ったかもしれない。

太一は興奮しながら、冷静だった。

海の命

BGMをつくりなおす時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

仲良く活動を進めている。たれかが率先して
進める様子はない。

父が亡くなったことを宣伝動画のどの場面で
伝えるか悩んでいる。早く伝えすぎているの
か、ということを感じ、7番目のコマで伝える。
この場所がいいのかどうか、考える必要があ
る。八班が同じように、どの段階で父の死を
表出するか悩んでいるので、八班と交流をす
ることですっきり考えさせたい。必要があれば、
そのほかの班を参考にできる機会をつくる。

増えた言葉、変わった言葉はありますか？

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

五班

名前()

BGMをつくる時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

死 魚 海 激しい
ブリ 命 クエ

場面の絵、あらすじ、キャッチコピーなど、どんな言葉を入れるか考えよう

画面のみ

太一のがれの人

太一は

与吉じいさんは冷静を教えた

どんな言葉で？
そのことがお話に大きくかわってくるの？

父の欲的であり海の命である
クエ

「欲的」とは？

父に続き 海に帰った 与吉じいさん

空白

時がたち

父の海にやってきた太一

ダッシにはどのような意味があるのか？
どのような効果があるのか？

ついに

父親を殺したクエと対峙する

太一は村一番の漁師になれるのか？

キャッチコピー

(背景をぼかして)
海の命

BGMをつくりなおす時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

真剣に取り組んでいる女の子と、少しずつ集中
中しだした男の子三名の集団。女の子は、クエ
の目が緑と青の違いを感じ、それぞれの色
を父と与吉じいさんに関連があると考えている。
深く考えているが、その考えをどのタイミング
で班に伝えるか悩んでいる。
男子も、音楽づくり、動画づくりには楽しんで
いるが、本文に戻ることが少ない。あらすじ
やキャッチコピーの根拠を本文に戻って考える
ように促したい。

増えた言葉、変わった言葉はありますか？

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

六班

名前()

BGMをつくる時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

海 (sea) 家族

海底

かなしみ (sadness)

美しい (beautiful)

命

生死

泡

BGMをつくりなおす時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

海 悲しみ 美しい

リーダーシップをとる児童がおり、作業も早い。
本文中に気になる点が複数あるが、自分たちで見直して修正を加え始めている。
このまま、児童に任せ、折を見て誉める、繋ぐことをしながら、課題があれば、みんなに聞いてみることを勧めたい。

場面の絵、あらすじ、キャッチコピーなど、どんな言葉を入れるか考えよう

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
1	17	16	12	10	7	7		1	3	3	
海の命	読んでいない人は、この意味をどのようにとらえるか？ 読んでいない人には、印象的な言葉になるか？	「おとう、ここにおられたのですか。また、会いにきますから。」	興奮しながら、太一は冷静だった。 本文には書いてあるけど、 どうして冷静？どうして興奮？どうして共存してる？	与吉いさと父の順序は？	太一は父の海にやってきたのだ。	次々につづく人の死 与吉いさと父からたくされた思い。	どうしてこの一文を入れるの？ 「自分では気づかないたちが、お前は村一番の漁師だ。 太一はとお真への海だ。」 父の瀬にいる一本釣りの漁師の師、与吉いさが言った。		周囲の人たちの生き方に影響を受けながら成長していく村一番のもぐり漁師の息子、太一。	父は自慢することもなく言うのだった 「海のめぐみだからなあ」	登場人物しようかい

増えた言葉、変わった言葉はありますか？

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

七班

名前（

）

BGMをつくる時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

場面の絵、あらすじ、キャッチコピーなど、どんな言葉を入れるか考えよう

海
悲しい
宝石（目）
壮大

BGMをつくりなおす時に使う言葉(プロンプト:prompt)
＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

段取り、見通し、計画が得意な児童が多く、作業が進んでいる。マイペースな児童もいるが、自分のペースで考えて、意見を言っている。自分たちで、見直して修正している。内容の理解にずれがあることが多く、他の班に繋ぐことをしながら、課題を見つけられるようにしたい。

増えた言葉、変わった言葉はありますか？

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

18

16

14

12

10

7

5

9

2

4

1

昔、あるところに太一という少年がいた。

昔？ ← 自分たちで気づき修正。

その少年の父は村一番のもぐり漁師だった。

太一が父の帰りを待っていたとき…

三点リーグに含まれる意味は？
三点リーグにはどんな効果があるの？

父がクエに食べられてなくなってしまうと伝えられた
しかし、父がクエをたおそうとしてなくなってしまったと伝えられた。

父はクエに食べられたの？

なぜなら、あきやには、だれものっていない父の船が一隻あったという。

空き家？太一と母は？

太一は、与吉じいさのもとへ、弟子にしてもらった。

村一番の漁師になった太一は与吉じいさが亡くなったことを知った。
悟った。

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

八班

名前()

BGMをつくる時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

海 魚 命
悲しい やさしさ 生と死
自然 神秘的 水

場面の絵、あらすじ、キャッチコピーなど、どんな言葉を入れるか考えよう

BGMをつくりなおす時に使う言葉(プロンプト:prompt)
＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

作業は進んでいるが、内容の吟味が必要。本文に帰りながら、根拠を基に考え直せるようにしたい。本時の早い段階で、教師が問うて意識できるようにする。それでも、班の中で質問が出てこない場合は、教師が焦点化した課題を投げかけ、整理するということに明確な課題を示すことを行いたい。

増えた言葉、変わった言葉はありますか？

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
17	×	13	×	11	黒	8	14	4	10	18
海の命		太一はもぐり漁師になって父の海にやってきた 太一は漁の方法を変えたの？		一匹の魚によって亡くなった クエが父を殺したの？	ある日父は 宣伝動画の構成として中盤に「父の死」が来てよいのか？	千匹に一匹だけつる漁師	光る緑色の目をしたクエ 緑色に意味があるのか？	太一の父は村で唯一のもぐり漁師	漁師を夢見る少年、太一がいた	ぼくは漁師になる。おとうといっしょに海に出るんだ。

)

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

九班

名前（

BGMをつくる時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

海 海 自然
命 心 悲しい
壮大な音楽
青
耳にのこる
海の音

場面の絵、あらすじ、キャッチコピーなど、どんな言葉を入れるか考えよう

太一という男の子がいた

父は漁師で海にたったひとりでもくっていた。

だがある日、父はとっぜん帰ってこなかった。

太一は成長し、与吉じいさの弟子になった

与吉じいさは太一に釣竿をかしてくれなかった

なんて……

三点リーダーに込めた意味は？
どのような効果がありますか？

もどってきて……

三点リーダーに込めた意味は？
どのような効果がありますか？

誰が戻ってきたの？

昔とはちがう

誰の今と昔？

海の命

BGMをつくりなおす時に使う言葉(プロンプト:prompt)

＝『海の命』のキーワード(keyword)を考えよう

仲が良く、自分たちで計画的に進められて
いる。前時の内にいくつか質問を投げかけてい
るので、後半に確認のために聞いていきたい。

増えた言葉、変わった言葉はありますか？

国語科

7月23日(水) 当日資料

第4学年2組

名探偵4年2組 推理小説の魅力を伝えよう

～「友情のかべ新聞」(光村図書 4年下)～

1時目から本時までの流れを紹介します。

【第1時】 ねらい：推理小説の世界に入りこみ、“なぜ”のおもしろさを感じる。



導入：お話との出会い

これから、ある事件が起こるお話を読むことを伝えた。「探偵になったつもりで推理をしながら読んでください」と声をかけたところ、「『推理』って何？」と複数の児童が言ったため、知っている児童に説明をさせた。推理というものは、「分かっているものを手がかりに、分からないことを考えること」と教師からも説明をした。このような推理する教材はこれまでに当たっていないため、どんなお話か児童は関心をもっていた。「楽しそう!」「気になる!」と、わくわくした反応が教室に広がった。

展開①：「消えたパンダ金魚」の読み聞かせと「なぜ」の発見

推理小説を読むことに興味を高めさせることができるよう、「消えたパンダ金魚」(杉山亮 作)を朗読。これは「事件編」と「事件解決編」の2部構成で書かれており、とても読みやすい。まずは、第一部の「事件編」を読むことを伝え、「読みながら、ふしぎだな・あやしいなと思ったところに線を引いてもいいよ」と声かけした。児童たちは集中して本文を追ひ、線を引いたり、「金魚がすり替えられてる!」「水がかかっただけで鏡見てたの?」「いつすり替えられたの?」「犯人は誰?」となぞをつぶやいたりしながら聞いていた。読み聞かせ後、登場人物が誰か、どんな行動をしていたか、どんな出来事が起きたかを簡単に見童と確認した。その中には解決の伏線となるものがいくつも含まれていたが、まだ児童は気付いていないようだった。

展開②:推理タイム

登場人物を提示し、「犯人は誰だと思いますか?」と問い、挙手させた。そして、個人でノートに推理を記述するように指示を出した。そのときに渡したものが「捜査メモ」である。捜査メモとは、物語に隠された「なぞ」を解くために、探偵になりきって登場人物や出来事の流れを自分なりに整理し、本文を基に自分の考えをまとめる学習メモのことである。児童達は「ぼくは、うまかわさんが一人になったのが怪しい」「わたしはねこやまさんだと思う」とつぶやきながら、推理していた。理由をすらすらと書いている児童には根拠や理由を書いていることを価値付けるのみ。なかなか進まない児童には、「どうしてそう思ったの?」「どこの文からそう思ったの?」と問うことで、考えを俯瞰させるようにした。「〇〇さんも同じ考えたから話してみてごらん」といって対話を促すことで、根拠や理由をもてるようにした。ある児童たちは、犯人の考えの違いから、「いや、でも…」「だってさ、…」と、それぞれの考えを伝え合っている様子も見られ、他者の意見に目が向き始めた。



展開③:全体における推理の共有

5人の児童に推理を紹介してもらう。様々な考えが出てきた中で、聞いている児童の中に「あー、なるほど。」「たしかに。」「(自分は違う立場だけど)そっちかもしれない。」など、相手の考えを受け止めている様子が見られた。その際には、その姿を価値付け、たとえ考えは違っていても、受け入れてみることの良さを確認していった。最後に、共有を通して、改めて自分が犯人だと思う人を意思表示させた。8人の児童が、考えを変えたようだ。「どうして、考えが変わったのかな。」と聞くと「〇〇さんの意見がとても納得したから」という発言を受け、その学びに向かう姿を価値付けた。もちろん、相手の考えを聞いても自分の変えずに、考えを深める姿にも意味があることを伝えた。



展開④:事件解決、伏線の発見

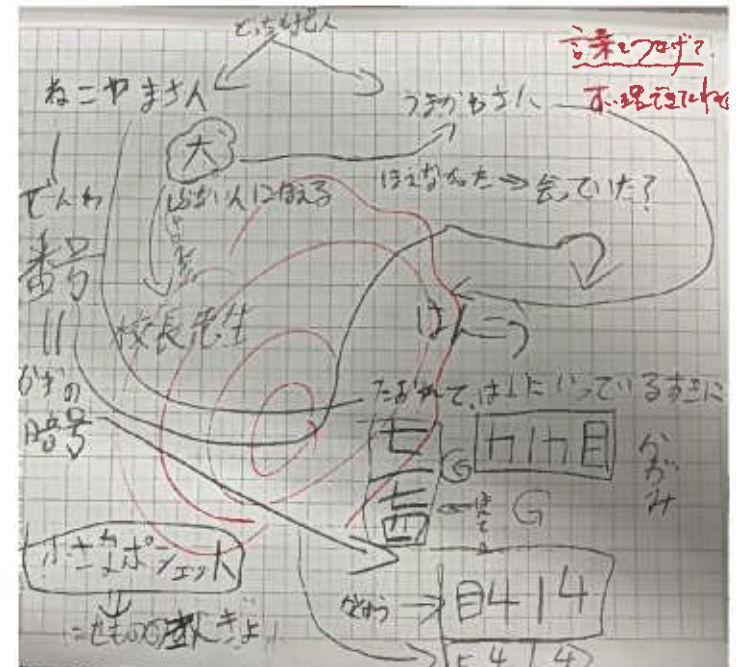
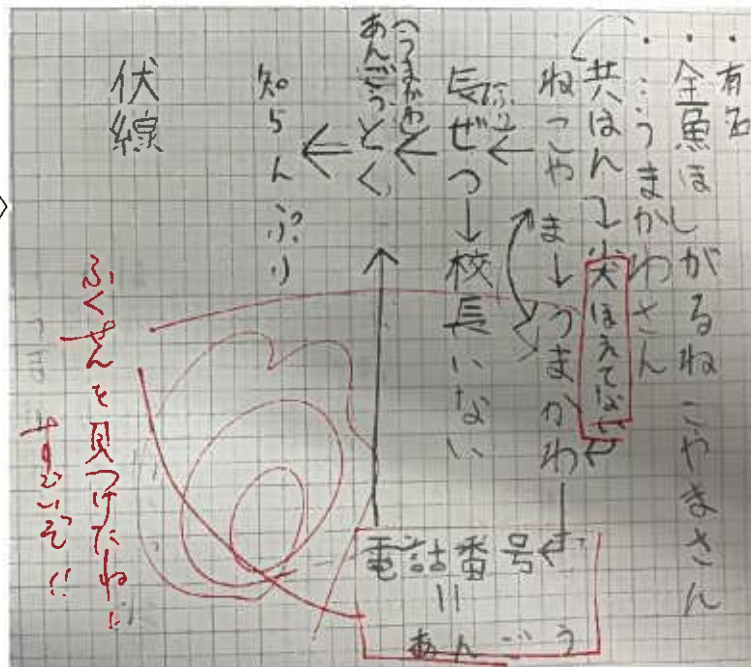
事件解決編を読んだ。児童達は真相を知りたくてたまらない様子である。その種明かしに、児童達は歓声を上げた。「あの、名刺の電話番号を書きなおしたのは、暗号を伝えるためだったのか!」「いつも吠えるはずの犬が、うまかわさんに吠えなかったことは大きなヒントだったんだ!」など児童

達は解決の手がかりとなる文章を見つけたようだ。そこで、教師は「伏線」という言葉を伝え、このような推理するお話には伏線がたくさん散りばめられていることを確認した。「犬がほえなかった」「鏡で暗号を見た」「名刺を書き直したのが合図」「あららんこらん」「傘を持っているうまかわさんがびっしょり雨に濡れていた」など、次々と伏線の気付きが出た。児童はすっきりした様子であった。

まとめ：学びの振り返り、次時への見通し

「推理小説って、“あーそういうことか!”ってなるのが面白いね」とまとめた。最後に、教師作の「ポスター」、「本の帯」、「ポップ」を提示。授業の終末では、児童に今日の学びを振り返らせた。「自分たちも推理小説の面白さを伝えたい」「ポスターや帯などを作ってみたい」「もっと他の推理小説を読んでみたい」といった振り返りがあがり、物語を深く読み解いた満足感と、次なる創作への意欲が見られた。また、「伏線に気付けたときがうれしかった」「もう一度読み返してみたい」という振り返りもあり、推理小説ならではの、読後の驚きや納得を実感できていたことがうかがえた。次時では、新たな短編ミステリー（友情のかべ新聞）を紹介し、これまでに得た気付きを生かしながら「読者に推理小説の面白さを伝えるにはどうすればよいか」を考え、ポスターや帯などの制作に向けて計画を立てていく予定である。物語を読み、推理し、他者と考えを交わす中で「伝えたい」という思いが自然に生まれた児童達。今後の表現活動へ、期待が高まる1時間となった。

実際に児童が書いた捜査メモである。分かっている情報を基に、なぜを解決しようとしていることが分かる。



【第2時】ねらい：物語を読み、自分の感想や気付きをもとに「なぞ」を見つけることで、読解への意欲と問いをもつ力を育てる。



第3時の板書

第2時の板書

導入：前時のふり返りとめあての確認

前時の『消えたパンダ金魚』を振り返りながら、「今日も新しいお話でなぞを見つけます」と教師が導入。児童からは、「なぞがあると楽しい」「伏線を見つけない」といった声があがり、推理小説ならではの魅力を再確認していた。

展開①：物語『友情のかべ新聞』を読む

「友情のかべ新聞」というお話を読むことを伝える。「どんなお話だと思いますか。」と問うと、「かべ新聞をつかって、友情が深まる」「けんかして、かべ新聞をつくり、友情が深まる」「みんなで一生懸命つくったかべ新聞が盗まれる」…など思い思いの予想を話す児童達だった。前回の学習もあってか、「何か不思議な出来事があって、伏線が含まれるんだよ。」と言っている児童もいた。想像を膨らませながら、「読みたい」という意欲が高まってい

た。教師が「友情のかべ新聞」の読み聞かせを行う前に、感想を書いてもらうことを伝える。方法はロイロノートでもノートでもどちらでもよいことにした。ロイロノートだと児童間での共有がやりやすいため、ノートで書いた児童も最終的にはロイロノートで写真を撮り、共有することを指示した。感想を考える際に、次の3つの視点を示した。「よかったこと・面白かったこと」「難しかったこと」「疑問に思ったこと」である。それぞれの視点から出てきた感想が、このお話の「なぜ」につながると想定していたからである。

展開②：感想交流と「なぜ」の言語化

読み終えた後はグループや全体で感想交流を行った。①「よかったこと」「面白かったこと」③「分かりにくかったこと」③「不思議に思ったこと」の順で伝えるようにした。以下のような感想が出てきた。

①ぼくの推理が面白かった。

①東君と西君が仲良くなってよかった。

①伏線がいっぱいあって面白かった。

①中井先生の作戦が成功してよかった。

②登場人物の気持ちの変化をつかむのが難しかった。

②様々な曜日の情報が出てくるから、「いつ」「何が起こったのか」一度の読みだけでは分かりにくかった。

③登場人物はどんな人達なのかな。

③どうして二人は仲が悪いのかな。

③東君や西君はどうして仲良くなったのかな。いつの間にか仲良くなったけど、一体いつ仲良くなったのかな。

③伏線がいっぱいあったけど、どんな伏線があったのかな。

③中井先生の作戦って本当に成功したのかな。

①、②についての感想を聞いた上で、最後に「疑問に思ったこと」を聞いてみた。①、②を最初に発言させたことで、①・②を踏まえながら疑問を引き出すことができた。「ぼくの推理」からすっきりしていた子どもたちであったが、すっきりした中に、まだいくつか疑問に残る部分があるようである。この疑問が、これから解決したいと思う「なぜ」となり、物語を深く読むことで。教師は児童の発言を基に、「東と西はどんな人？」「どんな出来事が起きたのか？」「先生の作戦は成功だったのか？」といった複数の「なぜ」を整理していった。

まとめ：振り返り、次時への見通し

最後に振り返りを行った。「伏線をたくさん見つけたい」「このなぜをもっと調べたい」「友情のかべ新聞でのポスターや本の帯、ポップをつくりたい」といった声があがり、読みの意欲が高まった。「どうしてポスターをつくりたいの？」と問い返すことで、「推理小説の魅力を伝える」という目的をも

う一度確認できるようにした。教師は「みんなのやりたいことをどう進めるかを明日考えよう」と「計画を立てる」という次時への見通しを示し、学習をつなげるようにした。

【第3時】 ※板書は第2時の通り

ねらい：推理小説の魅力を伝えることをゴールに据え、そのために必要な学習の内容や順序を、自らの言葉で見通すことができるようにする。

導入：「なぜ」を振り返り、学習の目的を確認する

第2時に続けて2時間連続の国語の学習である。前時に出了「なぜ」を黒板やロイロノートで確認した。そして、「推理小説の魅力を伝える」ことのゴールを確認し、「伝えるためにはどのような学習が必要か」と問うた。

展開①：ゴールから逆算して、必要な学習内容を考える

グループでどんな学習が必要か考えさせ、短冊に書くように伝えた。児童からは次のような考えがあがった。

- ・文章をいっぱい読む。・『なぜ』の答えを考える。・伏線を見つける。
- ・お話の内容を確認する。・お話の「設定」を確認する。
- ・ポップやポスター、帯に使える言葉を考えたい。(キーワード、人を引き付ける言葉、いろいろな表現)
- ・最後にはポップやポスターを完成させたい。

これらの発言から、児童は「伝えるためにはまず理解しなければならない」という意識を持ち始めていた。加えて、「どんな順番で学んでいけばいいですか。」と教師が問うと、「まず何度も読み直す」「なぜを整理する」「伏線を見つける」「ポスターや帯、ポップの作品をつくる」といった学習の順序を考える声が出てきた。「ポスターや帯、ポップの作品を作りながら進めてもいいか？」という児童の質問があったため、設計図をかきながら、学びを進めていこうということにした。

展開②：ポスターやポップの構想を立てる

「ポスターや帯、ポップの伝え方を考えてみよう」と教師が提案すると、児童達は「キャッチコピーを入れたい」「伏線を書くときより面白い」「マンガで描くのはどう？」など、具体的なアイデアを出し合った。ポスター・本の帯・ポップはいずれも表現の形式こそ異なるが、共通して「作品の魅力を伝える」という目的をもっている。ポスターは視覚的なインパクトを活かして物語の世界観やテーマを大きく表現するのに適しており、本の帯は短いキャッチコピーで読者の興味を引く工夫が求められる。また、ポップは読者目線の言葉でおすすめポイントを紹介することで、親しみやすさや共感を呼び起こ

す表現が中心となる。これらの違いを踏まえつつ、児童が「どうすれば作品の魅力が伝わるか」を考えながら、自分なりの表現方法を選び、伝えたいことを明確にする経験は、言葉の力や読解の深まりにもつながると考える。その上で、最終的には推理小説の魅力を他者に伝える活動として、「ポスター」「本の帯」「ポップ」のいずれかの形式を選んで制作することを提案した。児童には、どれを選んでもよいことを伝え、自分の得意な表現方法を生かす個別最適な学びとなるよう働きかけた。絵が得意な児童は絵を大きく使ったポスターに、パソコン操作が得意な児童はデジタルポップに、書写が得意な児童は筆文字を活かした帯作りに、それぞれ意欲を示していた。

ただし、すべての表現に共通する条件として、「物語の中にある『伏線』を見付け、それを作品に盛り込むこと」を設定した。これは、ある児童の「ただ犯人が分かるだけじゃなくて、『あのときのあれがそうだったんだ!』って気付くのが一番面白い」という感想の言葉から、伏線回収の面白さが推理小説の魅力であるという共通認識を見童自身がもっていることが分かったためである。これにより、本時では、児童一人ひとりが「どんな“なぞ”に注目し、それをどう伝えるか」「どの表現形式を選ぶか」「伏線をどう扱うか」といった見通しをもちながら、自らの学びの計画を立てることができた。推理小説の面白さを伝えたいという目的に向かって、個性を活かしつつ、共通の課題にも挑戦するという、主体的で深い学びへの土台が築かれた時間となった。

【ポスター・本の帯・ポップの違い】

種類	表現の特徴	向いている内容	形式・ポイント
ポスター	ビジュアル重視で、作品の世界観や魅力を大きな一枚絵で表現	物語全体のテーマやインパクト、雰囲気伝える	キャッチコピー、絵、色使いで印象づけ
本の帯	本の表紙につける短い宣伝文で、目を引くようにまとめられている	驚き・感動・謎など、読みたくなる一言	1行～2行で簡潔に。 例：「最後の1行に、あなたはきっと驚く。」
ポップ	書店などで使われる、紹介＋おすすめコメントの手書き広告	作者の思いや読者の感想など	口調がくだけで、親しみやすい語り口

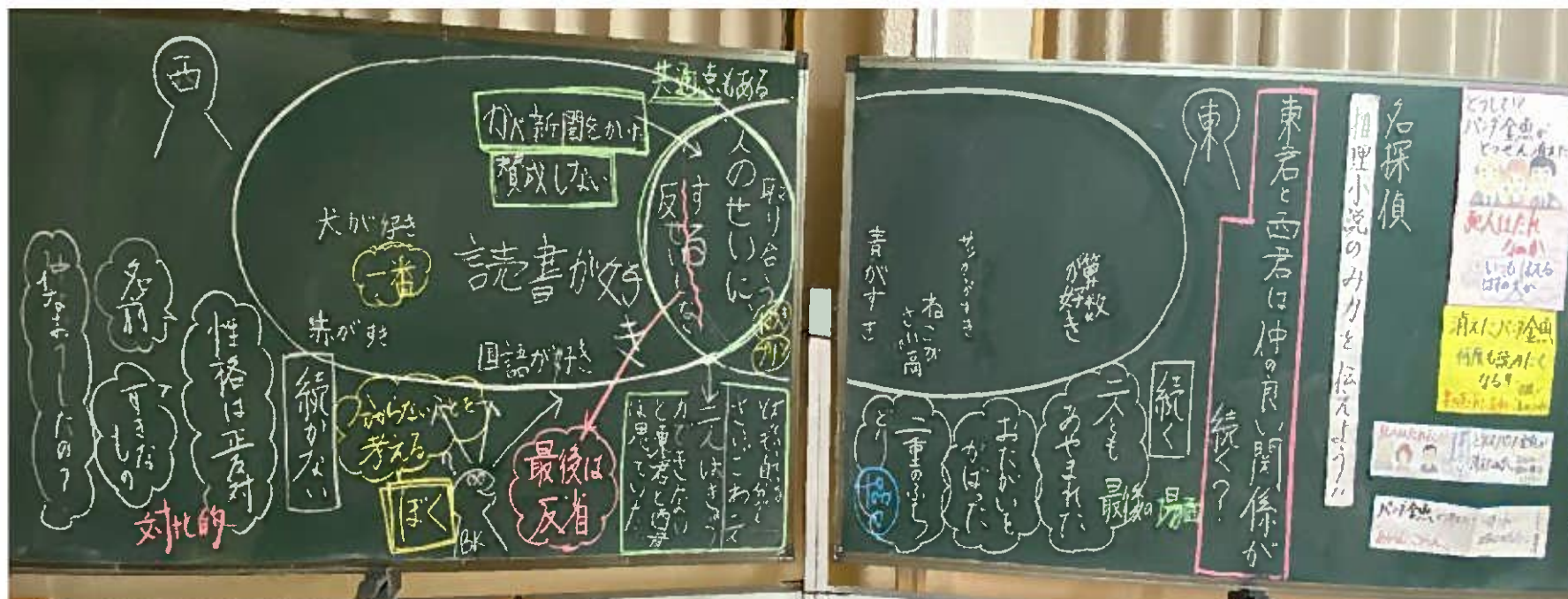
まとめ：推理小説の魅力を伝えるための学習計画の確立、振り返り

授業の終わりに、教師が「『なぞ』は物語の面白さを生むカギであること。」「その面白さをどう伝えるかを考えることが、みんなのこれからの学びであること」を伝えた。本単元では、「なぞを解く」ことだけを目的とするのではなく、「なぞを解くという魅力をどう伝えるか」という大きな目標を意識し続けることで、児童が読みの深まりを表現に結びつけたいと考える。

【第4時】

本時のねらい

登場人物である東君と西君は「これからも仲良くできるのか」を問い直すことで、登場人物の性格や行動に着目しながら、人物理解を深め、作品を読み解く力を高めていく。



導入：感想を活用して本時の課題をつくる

第2時では、14人の児童が「東と西が仲良くなってよかった」という感想を書いていた。その児童の感想を基に、教師は「『たくさんの人が仲良くなってよかった』と書いているけど、このまま二人の仲は続くと思いますか。」と問うた。すると、「続く」という意見と、「続かない」という意見に分かれた。「どうしてそう思ったの。」という問いに対し、「続く」という考えをもつ児童は、「かべ新聞を二人でつくったから」「最後の挿絵はにっこりしているから」などと発言した。「続かない」という考えをもつ児童は「元々二人はすごく仲が悪いんだから」「なんだか無理している気がするから」と発言した。こうしたやりとりから、児童たちは自然と人物の性格や行動に目を向け始めた。

展開①：自分なりの方法で人物像を「捜査メモ」にまとめる

人物の性格や行動に目を向け始めたときに、「登場人物の人物像に着目しているんだね」と確認し、これまでも「白いぼうし」の学習で松井さんの人物像をまとめたことを想起しつつ、学びをつなげることができていることを価値付けた。また、本文の言葉を根拠に人物像にあたる言葉を見つけている児童の読みについて、「〇〇という言葉に注目して、正確を考えているんだね。」「根拠がはっきりしているね。」と価値付けた。他にも、「アップとルーズで伝える」や「一つの花」で読みの観点として扱った「対比」の視点をもって、表やベン図などを活用してまとめている児童がいたため、称賛とともに価値付けた。児童たちは、それぞれのスタイルでメモに取り組んでいたが、教師の価値付けによって、そのまとめ方が広がっていったり、上手く進まない児童には、「東君と西君はどんな性格だと書いてあるかな」と言葉をかけたり、「〇〇さんが気付いていたから見ておいで」と促したりすることで、学びを支援するように努めた。

展開②：この物語の話者の視点について考える

捜査メモの中に、東君や西君だけでなく、「ぼく」を入れている児童もいたため、黒板に書かせた。この「友情のかべ新聞」は、「ぼく」の語りで進む一人称視点で書かれた物語である。つまり、読者は「ぼく」の目を通して、東君と西君のこと、クラスの様子、先生の表情などを見ているという構造だ。その児童に黒板に書かせたことで、可視化し、他の児童がそれに気付いて「どうして東君と西君以外の絵を描いているの？」と認知的葛藤を起こしていた。教師が全体に共有し、「なぜ『ぼく』も入れたのだろう？」と問いかけると、児童からは「『ぼく』がこの二人をずっと見ているから」「推理しているのは『ぼく』だから」といった意見が出された。このやりとりを通して、この話は、単なる「東君と西君が仲直りする話」ではなく、それを外側から観察し、「なぜそうなったか」を推理し、最後に「これからどうなるのだろう」と考えるという「ぼく」の内面の物語でもあることに気付くことができた。教師は、「東と西を見ている『ぼく』の目線があるからこそ、二人の変化や関係が伝わってくるんだね」と「ぼく」視点でこの物語を見るよさを価値付けた。このように、視点構造をとらえることで、「誰が、何を、どう語っているか」という物語の多層的な構造に気付く、これは高学年以降の文学的読みの基礎につなげることができるようになる。



【『ぼく』の視点に気づき、書く児童】

まとめ：なぞの解決と作品づくりの見直し・更新

まとめの時間では、数名が自分の捜査メモの気づきを発表した。特に、自分たちで考えた「なぞ」と、読み取ったことがどうつながっているかを確か

め合う場とした。「二人はどうして仲が悪いのか」というなぞに対して、「性格が『正反対』だから続かないと思う」と発言する児童や、「二人はこだわりが強いけど、自分の間違いに気付ける人」と述べた児童もいた。教師が「どうしてそう思ったの?」と問うと、「最後に『ぼくが悪いんです』とお互いに言えたから」と、捜査メモの記述と関連付けて答える姿が見られた。出来事に注目している児童には、「この出来事、いつのことかな?」と問いかけ、時間の流れや順番に意識を向けさせた。

また、「相手のせいばかりにする」と書いた児童に「どんなとき?」と尋ねると、「花瓶を割ったとき」と返答があり、「それって何曜日の出来事?」と続けて問うと、教材に戻って確認する姿が見られた。出来事と人物像を結び付けて考える力を価値付け、次時の学びへの布石とした。

さらに、「ぼくも大事な登場人物だ」と気付いた児童が、ポスターに「ぼく」の絵を描こうとする姿もあった。これは、語り手の視点に着目し、物語の構造を捉えようとする読みの深まりを示していた。また、「正反対」という表現に注目した児童は、「この言葉は物語のカギだと思う」と振り返り、自作の帯に取り入れようとしていた。いずれも、本文から読み取ったことを表現に生かそうとする姿であった。

このように第4時では、感想を起点とした問いかけを通して、児童が自然と人物像に注目し、自分なりに整理・表現しながら物語理解を深めていく姿が見られた。

【東君と西君はなぜ仲が悪いのか?】

東君と西君はなぜ仲が悪いのか? とよく、とだけ分けた気がする...

性格 正反対

名前

東 西

東君は天が好きな
西君は雨が好き
東君は国語が好き
西君は算数が好き

東君は花が好きな
西君は読書が好き
東君は算数が好き
西君は音楽が好き

私は西君と東君の関係は続くといいです!
理由は最初は仲が悪かったけど、最後は...
自分から人と向き合って、最後は仲良くなった。だから私は関係は続くといいです!

【東君と西君はなぜ仲が悪いのか?】

【東君と西君はなぜ仲が悪いのか?】

【東君と西君はなぜ仲が悪いのか?】

【東君と西君はなぜ仲が悪いのか?】

東君と西君はなぜ仲が悪いのか? とよく、とだけ分けた気がする...

性格 正反対

名前

東 西

東君は天が好きな
西君は雨が好き
東君は国語が好き
西君は算数が好き

東君は花が好きな
西君は読書が好き
東君は算数が好き
西君は音楽が好き

私は西君と東君の関係は続くといいです!
理由は最初は仲が悪かったけど、最後は...
自分から人と向き合って、最後は仲良くなった。だから私は関係は続くといいです!

【東君と西君はなぜ仲が悪いのか?】

【東君と西君はなぜ仲が悪いのか?】

【東君と西君はなぜ仲が悪いのか?】

【東君と西君はなぜ仲が悪いのか?】

【第5時】

本時のねらい：時間の流れに着目して、登場人物の言動を整理しながら、物語を読み取る。



導入：前時の学びを価値付け、本時の課題をつくる

前時（第4時）の後半では、「花瓶を割った」や「『ぼくが悪いんです』とお互いに認め合えるようになった」と、登場人物の行動と曜日を結び付けて考える児童に、「それっていつのこと？」という時間の流れに対する問いをすることで時間に着目できるようにしていた。そこで、本時の導入では、教師が前時の振り返りとして、時間に着目して、出来事や人物像を見ていた児童がいたことを紹介した。そして、「様々なことが次々に起こってたけど、いったい、このお話っていつからいつまでの出来事だったんだろう？」と問いかけることで、すぐに、「月曜日からだったと思う。」「火曜日に新聞ができていて、びっくりしてたよね。」「ごちゃごちゃしていてよく分からない」など、児童たちからは発言があり、物語を時間軸でとらえようという意識が高まっていった。さらに、教師が「どうしたらもっと分かりやすくなるかな？」と問い返すと、ある児童が「曜日ごとにまとめたらいい」と発言したことを受け、本時の課題とした。

展開：出来事を自分なりのまとめ方で整理する⇒問うことで気持ちについて考えるきっかけをつくる

児童の声を受け、教師は「東君と西君に起こった曜日ごとの出来事を整理していってみよう」と話し、どのように整理したらよいか問うた。すると、

回覧

令和7年度 佐賀県小学校教育研究会国語部会

夏季研修会

二次案内

8/1(金)

テーマ「こくご はじめの一步2」

場所：佐賀大学教育学部附属小学校

今年も、参加者の皆様に模擬授業の形で、2本の講座を体験していただきます！
日頃の授業にお悩みの先生は、お仲間をお誘い合わせの上、ぜひ足をお運びください！
講座の後にはQAタイムを設けています。実際の授業場面に即して、すぐに実践できる
形でお答えします。どんな小さなお悩みでもお寄せください。

参加費 一般参加 1000円 学 生 500円

日程

13:00	受付開始	
13:30	開会	
13:35～14:25 14:30～15:20	説明文・書く単元ベーシック編 すぐに授業で使える！ 国語授業のベーシックスキル ①説明文の授業の型 ②書く単元の授業の型 ③Q&Aタイム	説明文・書く単元レベルアップ編 さらにレベルアップ！ 楽しく学べる言語活動を入れた国語 授業 ①楽しい言語活動を入れた説明文 ②遊びながら学ぶ書く単元 ③Q&Aタイム
15:30～16:25	そのまま授業できる！みんなで教材研究タイム	
16:30	閉会	

講座1・講座2は、参加者を2グループに分け、それぞれの教室でどちらかを先に受けて頂きます。
講座1を先に受けた方は講座2へ、講座2を先に受けた方は講座1に移動し、両方受けることができます。

みんなで教材研究では、学年ごとに
集まって頂いて教材研究をします！2学期の
実践に向けて、準備を整えましょう。

- 1年 じどう車くらべ・いろいろなふね
- 2年 ロボット・ビーバーの大工事
- 3年 ありの行列・せっちゃんざいの今と昔
- 4年 未来につなぐ工芸品・

くらしの中の和と洋

- 5年 固有種が教えてくれること・

新聞記事を読み比べよう

- 6年 「考える」とは・

「永遠のゴミ」プラスチック

現時点での参加者に頂いている質問です。同じお悩みを
お持ちの先生、ぜひ一緒に勉強しましょう！

- ・授業の進め方が分からない。
- ・子供が自力で書き始められない。
- ・魅力的な言語活動の設定方法について知りたい。
- ・音読や漢字の指導法について知りたい。
- ・個別最適な学びと協働的な学びについて知りたい。
- ・若手の先生の困っていることを知りたい。
- ・物語文の授業の流し方を知りたい。
- ・読解力を上げる手立てについて知りたい。
- ・作文で、得意な子と苦手な子の差が激しい。
- ・繰り返しの書きせ方について知りたい。

お申込み



2025年度 国語って楽しい学習会

2025年4月

毎月最終土曜日 9:30～

附属小学校メディアセンターでいろんな先生が集まって
みんなで「楽しい国語科の授業」づくりをしています。
国語の授業を変えよう、授業参観のネタを探そうなど
気楽にお越しください。

日付 内容

- | | |
|------------------------------------|------------------|
| ● 4月26日 | 国語科で学級開き
国語開き |
| ● 5月 ³¹ 24 日 | 生活文や作文・文集のコツ |
| ● 6月28日 | 説明文の授業づくりⅠ |
| ● 7月23日
7月24日 | 附属小学校研究発表会 |
| ● 8月1日
(予定) | 国語科夏季研
内容未定 |
| ● 8月30日 | 詩の学習の進め方 |
| ● 9月27日 | 物語文の授業づくりⅠ |
| ● 10月25日 | 説明文の授業づくりⅡ |
| ● 11月29日 | 物語文の授業づくりⅡ |
| ● 1月31日 | 国語科で学級開き
国語開き |

学びたいときに、無理をせずというペースで行
っています。申し込みフォームは、こちら→



今日の参観ありがとうございました。学びの姿を見るシートの記入、研究会のアンケートの記入をお願いします。

令和7年度佐賀大学教育学部・附属小中学校教育研究発表会アンケート入力フォーム



公開授業Ⅰ 1年1組教室

1年1組 徳永 祐也

お話をいっぱいしよう『くじらぐも』

学びの姿を見るシート入力フォーム



公開授業Ⅱ 多目的室Ⅰ・Ⅱ

6年1組 中尾 通孝

映画『海の命』の宣伝動画をつくろう

学びの姿を見るシート入力フォーム



公開授業Ⅲ 多目的室Ⅰ・Ⅱ

4年2組 中原 侑也 名探偵4年2組

推理小説の魅力を伝えよう『友情のかべ新聞』

学びの姿を見るシート入力フォーム



また、あわせて、佐賀県小学校教育研究会国語部会夏季研修会と学習会の知らせを掲載しています。是非、ご参会ください。

夏季研修会	国語科学習会
	